

多文化共生事業事例集

年度
27

団体名	公益財団法人 愛知県国際交流協会	多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル	意識啓発地域づくり
事業費総額	2,543千円			

事業名 コミュニティガーデンを活用した多文化共生のまちづくり促進事業 ～地域の人々が協働する緑の空間～

特徴 外国人が地域のコミュニティの一員として事業を実施しており、日本人にも外国人とつながりやすい環境を構築し、多文化理解のきっかけとなった。共に作業することで生まれるつながりの構築を図っている。

事業のポイント

- 「コミュニティガーデン」というツールを使うことで、いわゆる「無関心層」と呼ばれる方たちにも地域づくりに関わってもらおう
- 1年を通して作業やイベントを行うことで、継続的な活動を実施する
- 「食」をテーマにすることで、子どもからお年寄り、日本人も外国人も多様な方たちに楽しんで参加してもらおう

事業の背景・目的

「多文化共生」の事業は多く実施されているが、参加者が限られていたり、単発のイベントで終わってしまうことが多く、真の意味での地域づくりにはなかなかつながらない。

そこで、本事業では、「多文化共生」にあまり関心の無い地域住民や、支援されることが多く主体的に地域にかかわることが少ない外国人住民が、気軽に交流でき、地域づくりに参画し、自然な形で多文化共生の地域づくりを推進するためのツールとしてコミュニティガーデンを開設。

平成25年度は勉強会や企画づくり、平成26年度はガーデン開設、平成27年度は多文化共生の地域づくりにつながるガーデン運営を地域住民が主体となって行った。

当事業を協働実施した刈谷市は、外国人の数が県内で12番目に多く、人口比が1.9%。中核的な市で、他地域のモデルとして適しているとともに、積極的に「多文化共生」事業に取り組んでいた。

事業の概要

- 1. 実行委員会の開催**（12回 延べ参加者数219名）
多文化共生のまちづくりにつながるコミュニティガーデン「ワールド・スマイル・ガーデン（通称：ワールデン）」の具体案、3年後のビジョン、予算や外国人住民の参画などの課題検討などについて、参加型で話し合った。
- 2. ワールデン合同作業の実施**（11回 延べ参加者数422名）
月に1回定例の合同作業を行い、苗の植え付けや田植え、草取り、収穫などを行った。
- 3. イベントの実施**
多くの地域住民、外国人住民にワールデンを知っていただくとともに、ワールデンの目指す3つの旗印（→次ページ「まちづくりの視点」）を実現するために、イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	参加者数
多国籍ガーデンの開園と交流会	6/6	外国人住民が植えたい母国の野菜を植えると共に日本人住民にその野菜について紹介する交流会を開催	57名
災害時炊き出し体験	8/8	アルファ米のつくり方体験、収穫野菜を使ったカレーの試食	36名
案山子づくり	9/5	ワールデンの田んぼにたてる案山子をみんなで作った	28名
収穫祭	11/3	野菜の植え付けと収穫体験、収穫した米のおにぎりや焼き芋の試食	56名
防災グッズづくり	2/21	空き缶を用いた炊飯体験、ロケットストーブのつくり方実演、冠水体験	51名

4. 勉強会等の開催

開催日	内容	参加者数
11/13・12/9 12/12	草花の選び方、植え方、手入れの仕方について、実習しながら学ぶ勉強会	延べ 58名
1/21	多文化共生NPOの実践事例から、外国人とのつながり方、関わり方について学ぶ勉強会	20名
1/23	岐阜県美濃加茂市の「多文化共生アグリ交流グループ」を視察	18名

5. 情報の発信

多言語によるチラシ、活動を紹介する「KARIYA GLOCAL LETTER」などを作成するとともに、SNSを利用した広報活動、地域運動会への参加などを行い、広く情報を発信した。



案山子づくり



防災グッズづくり…アルミ缶炊飯体験

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇地域住民主体の運営

住民全体で、ガーデンの管理・運営方法、イベントや勉強会の企画・準備をするため、参加型の実行委員会を開催した。イベントの実施についても住民全体で行うとともに、外国人住民も対等な立場で企画に参加できるよう、ガーデンの一部に外国の野菜などを自由に栽培できる「多国籍ガーデン」を設置した。その結果、年度末には、地域住民による「ワールドスマイルガーデンーツ木」というNPOが立ち上がった。



アルファ米カレーライス試食

◇まちづくりの視点

ガーデンづくりの作業だけにとどまらず、「地域づくり」「まちづくり」につなげていくため、何のためのワールドデンなのかを実行委員会で常に確認し、3つの旗印を参加者みんなで決め、共有した。

- ①地域の情報交換の場
- ②防災&子どもの食育の場
- ③老若男女・世代間の交流の場

これらを踏まえ、近隣の幼稚園への情報提供や、イベント等の企画を行った。

◇SNSなどの情報ツールの活用

広く地域住民、特に外国人住民が気軽に参加できるよう、ワールドデンにホワイトボードを設置し、作業日を掲載しておいたほか、SNSを利用することで、定例作業や活動等について広く情報を発信した。



実行委員会

◇NGOとの連携

ガーデンの運営や事業の企画・実施に、地域住民の意見や思いを反映させ、住民主体の活動を展開するため、事業全体にかかるプロセスデザイン及び実行委員会の企画・実施を、まちづくり推進活動を行なうNPOに委託した。また、事業全体の方針を検討するとともに、より円滑に実行委員会を進める準備をするため、運営主体である当協会と刈谷市、(特活)NIED・国際理解教育センター、実行委員長及び副実行委員長(地域住民)で構成される事務局会議を開催した。

今後の課題・将来に向けての展望等

◇実行委員会を効率的に進めるため、あらかじめ当協会、刈谷市、NPO団体、地域住民の代表による事務局会議で、進行状況や課題の整理、スケジュールや予算の管理等を行ってきたが、そうした運営のための作業も少しずつ、地域住民に任せ、より地域主体の事業に発展させ、当協会は側面的に支援していきたいと考えている。

◇まだまだ外国人住民の参画が少ないので、増やしていくための工夫をしていきたい。

◇自立したガーデンの運営・活動を継続的に行っていくとともに、プロセスやノウハウを他地域に発信し、地域に根ざした多文化共生のまちづくりを広げていきたい。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 実行委員会メンバーがイベントの開催の企画を行い、地域のつながりを活かした活動をするにより、地域に密着した活動への参加が増えた。特に子どもを持つ若い子育て世代の参加が増えた。
- ⇒ 多文化共生の地域づくりの活動拠点として、ガーデンを中心とした協働活動ができてきた。皆が、熱意と愛着を持ち、取り組む姿勢がみられ、一体感が生まれる活動に繋がったと感じている。
- ⇒ 協働で事業を実施した刈谷市がとても協力的で、連携・ネットワークの大切さを実感した。